

年間指導計画表(シラバス)

科目名	家庭・家庭基礎	単位数	2(前期又は後期)
		学年等	平日登校コース・1年次

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得するとともに、それらを活用し、生活の充実向上を図り、家庭や地域及び社会の生活課題を解決する方法等について考えることができる。
使用教科書 副教材等	家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍) 家庭基礎 学習ノート(東京書籍)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活や環境などの基礎的なことについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付け、活用することができる。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現することができる。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、改善し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとする。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前半	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会を共に生きる 第5章 共に生き、共に支える 第8章 住生活をつくる 第9章 経済生活を営む	・学習ノートや実習のワークシートの記述分析 ・作品製作	・視聴記録 ・レポート作成等 ・授業中の行動観察 ・学習課題等	・自己評価プリント ・授業中の行動観察
	評価点	50点	120点	100点
後半	第10章 持続可能な生活を営む 第7章 衣生活をつくる 第6章 食生活をつくる 第11章 これからの生活を創造する	・定期考査 ・学習ノートや実験・実習のワークシートの記述分析 ・作品製作	・視聴記録 ・授業中の行動観察 ・学習課題等 ・作品製作	・自己評価プリント ・授業中の行動観察
	評価点	150点	80点	100点

4 指導の計画

学期	月	月	単元及び学習内容	時数	
前半	4	10	〔家庭科の学び方〕 生活に活かそう～ホームプロジェクト～	1	
			〔第1章 生涯を見通す〕 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	1	
	5	11	〔第2章 人生をつくる〕 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会	3	
			〔第3章 子どもと共に育つ〕 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境	7	
	6	12	〔第4章 超高齢社会を共に生きる〕 1 超高齢・大衆長寿社会の到来 2 高齢期の心身の特徴 3 これからの超高齢社会	6	
			〔第5章 共に生き、共に支える〕 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる	3	
	6	12	〔第8章 住生活をつくる〕 1 住生活の変遷 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	7	
			〔第9章 経済生活を営む〕 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任	4	
			レポート作成	1	
後半	7	1	4 生涯の経済生活を見通す 5 これからの経済生活	1	
			〔第10章 持続可能な生活を営む〕 1 持続可能な社会を目指して	1	
	8	2	〔第7章 衣生活をつくる〕 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 衣生活の文化と知恵 5 これからの衣生活	12	
			〔第6章 食生活をつくる〕 1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食品の選択と安全	17	
	9	3	4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎 6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活	1	
			〔第11章 これからの生活を創造する〕 1 生活をデザインする	1	
				期末考査(前期又は後期)	1
				前期又は後期の学習のまとめ	4

5 その他

自分の家庭、地域の生活をより良くするために、体験学習や実験・実習を行います。定期考査は1回実施します。授業で指示されたことを皆で守り、互いに安心して授業が受けられるよう、協力をお願いします。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	家庭・家庭基礎演習	単位数	2(通年)
		学年等	平日登校コース・2年次

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>「家庭基礎」で学習した内容を発展させ、福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的理解を図り、体験的・総合的に技能を身に付け、活用することができる。</p> <p>「家庭基礎」で学習した内容を発展させ、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決することができる。</p>
使用教科書 副教材等	<p>家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍)</p> <p>家庭基礎 学習ノート(東京書籍)</p> <p>※いずれも令和4年度「家庭基礎」の授業で使用したものを継続使用とする。</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生活を主体的に営むために必要な福祉、衣食住、消費生活・環境など基礎的なことについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付け、活用することができる。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決することができる。	よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善し、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとする。
評価点	400点	400点	400点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	<p>〔生活の自立〕</p> <p>第8章 住生活をつくる</p> <p>第9章 経済生活を営む</p> <p>第6章 食生活をつくる</p>	<p>・実技テスト</p> <p>・学習ノート</p> <p>・ワークシート</p>	<p>・授業・実習での行動観察</p> <p>・実技テスト</p> <p>・提出課題</p>	<p>・授業・実習での行動観察</p> <p>・提出課題</p>
	評価点	200点	200点	200点
後期	<p>〔家族・社会との共生〕</p> <p>第3章 子どもと共に育つ</p> <p>第5章 共に生き、共に支える</p> <p>〔生活の自立〕</p> <p>第6章 食生活をつくる</p> <p>第7章 衣生活をつくる</p> <p>第10章 持続可能な生活を営む</p>	<p>・確認テスト</p> <p>・学習ノート</p> <p>・ワークシート</p>	<p>・授業・実習での行動観察</p> <p>・確認テスト</p> <p>・提出課題</p>	<p>・授業・実習での行動観察</p> <p>・提出課題</p>
	評価点	200点	200点	200点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	〔生活の自立〕 第8章 住生活をつくる	12	
	5	1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活		
	6	第9章 経済生活を営む 4 生涯の経済生活を見通す	4 1	
			
	7	第6章 食生活をつくる 3 食品の選択と安全	14	
	8	5 調理の基礎		
	9	6 食生活の文化と知恵	1	
			
			前期の学習のまとめ	3
	後期	10	〔家族・社会との共生〕 第3章 子どもと共に育つ	12
11		2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる	4	
12		第5章 共に生き、共に支える 3 共に生きる	1	
.....				
			〔生活の自立〕 第6章 食生活をつくる 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎 7 これからの食生活	5
1		第7章 衣生活をつくる 4 衣生活の文化と知恵 5 これからの衣生活	6	
2		第10章 持続可能な生活を営む	4	
.....				
3			後期の学習のまとめ	2

5 その他

- ・「家庭基礎」を発展させた科目でグループワークやプレゼンテーションを多く行います。グループワークや人前での発表が得意な人に向いています。
- ・中間考査・期末考査は実施しませんが、かわりに授業内で実技テスト、レポート、確認テスト等を実施します。
- ・実習費が高額です。保護者と相談してください。
- ・食物アレルギーのある人は医師・保護者と相談してください。